

【単元名】

長く続いた戦争と人々の暮らし

【第6学年の目標】

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 我が国の政治の考え方と仕組みや働き、国家及び社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産、我が国と関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における我が国の役割について理解するとともに、地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の歴史や伝統を大切に国を愛する心情、我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。

【学習指導要領の内容】

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(サ) 日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などを手掛かりに、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解すること。

(シ) 遺跡や、文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること。

【評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	知識・理解
戦争が日本や外国に与えた影響や、戦争による被害、戦争中の国民の生活について関心をもち、進んで調べようとしている。	日本と外国それぞれの政府や国民の立場に立ち、戦争がもたらす被害や平和の大切さについて多面的・多角的に考えることができる。	戦争がもたらす被害や歴史上の出来事について、当時の様子を表す写真や図、教科書、資料集などを用いて調べることができる。	戦争当時の暮らしや原爆の投下など、戦争がもたらす被害の様子について理解することができる。

【単元の構想】

基本の流れ	構想の具体
1 身に付けさせたい力	本学級は男子15名、女子17名が在籍している。社会科学の学習について、歴史上の出来事や様子について興味をもっている児童は多い。しかし、それらが現在の自分たちの生活に結びついているということが理解できていない児童が多い。自分たちの暮らす町や生活の現在と過去を比較できる資料を用意することで、先人たちの暮らしや取り組みが現在の自分たちの生活の基盤になっていることに気付かせたい。そして、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深め

	<p>るようにする。</p> <p>また本学級の児童は、自分の考えをもったり、他者と自分の考えを交流したりすることが苦手な児童が多い。様々な写真や図などの資料を提示したり、教師が交流の目的を明確にしたりすることで、資料から根拠を得ることで明確な自分の考えをもち、自信をもって交流することで、多様な他者の考えを理解できるようにする。</p> <p>さらに、本単元の学習では、日本と他国との戦争についての内容が主となる。「戦争は良くないこと、二度と起こしてはいけないもの」というイメージをもっている児童が多くいる。そのため、「なぜ戦争が始まったのか。」「戦争によって国内外の様子や国同士の関係がどのように変わったのか。」などの起源や変化を問う視点を大切にし、社会的事象の見方・考え方を働かせて学習を進めていきたい。</p>
<p>2 単元について</p>	<p>本単元では、我が国が戦時体制に移行したこと、各地への空襲、満州事変、太平洋戦争、広島・長崎への原子爆弾の投下などによって、日本は大きな被害を受けたことや、中国をはじめとする諸国に大きな損害を与えたことについて調べ、自分の考えをまとめていく。また、戦争の広がっていった様子が分かる地図や戦争の流れが分かる年表から、戦争が起こったり長く続いたりした理由について、日本や外国の政府、国民の立場に立って考えていく。</p> <p>単元の導入では、現在も残っている原爆ドームについての資料を提示する。原爆ドームは1996年にユネスコの世界遺産（文化遺産）に登録され、世界中の多くの人々に認知されている。児童たちは、第6学年国語科「平和のとりでを築く」の内容から原爆ドームについて学習をしている。その中には、「日本が戦争によって大きな被害を受けたことの象徴。」「戦争を二度と忘れないために残しておくべきだ。」という日本側から見た原爆ドームについての内容が示されている。本単元の学習を通して、それに加えて日本が大きな損害を与えた外国の国民や政府の立場から、原爆ドームに対してどのような思いをもっているかを考える。双方の立場から原爆ドームについて考えることで、自分の考えを深めていきたい。</p> <p>また、各時間の学習のまとめとして、学習内容から日本や外国の政府、国民がどのような思いをもっていたかについて考え、学習カードに書く時間を設ける。歴史上の出来事から、様々な立場の人がもつ戦争に対しての思いを書き溜めることで、原爆ドームについて様々な立場から考えをもつことができるようにしたい。</p>
<p>3 単元の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 戦争が日本や外国に与えた影響や、戦争による被害、戦争中の国民の生活について関心をもち、進んで調べようとしている。 (社会的事象への関心・意欲・態度) ○ 日本と外国それぞれの政府や国民の立場に立ち、戦争がもたらす被害について多面的・多角的に考えることができる。 (社会的な思考・判断・表現) ○ 戦争がもたらす被害や歴史上の出来事について、当時の様子を表す写真や図、教科書、資料集などを用いて調べることができる。 (観察・資料活用の技能)

4 「自ら考え進んで関わる学習」を目指して	<p>○ 戦争当時の暮らしや原爆の投下など、戦争がもたらす被害の様子について理解することができる。 (社会的事象についての知識・理解)</p>
5 キャリア教育について	<p>日中戦争や太平洋戦争、戦争中の様子や国民の生活について、戦争当時の様子が分かる写真や具体物を提示する。それらから一人学びで自分の考えをもち、広げていくためのペアやグループ、全体での交流活動を行う。交流をする際には、自分の考えと似ている点、違う点などの視点をもたせ、他者の意見と比較して交流をするよう指導する。</p> <p>本単元では、キャリア教育で身に付けさせたい基礎的・汎用的能力のうち、「①人間関係形成・社会形成能力」に重点を置いて、学習を進めていく。</p> <p>本時の学習では、既習内容を示した掲示や学習カードを活用し、根拠をもって自分の意見をも考えさせることで、自信をもって正確に自分の考えを伝えることができるようにする。また、考えを交流する場面では、自分の意見を付箋に書き表し、グループで1枚の用紙に貼って項目ごとに類型化する。自分の気付かなかった考えや違う視点からの考えを可視化することで、多様な他者の考えや立場を理解できるようにする。</p>

【単元計画】(7時間)

時	学習活動	支援・留意点
1	原爆ドームの写真を見て、日本人の視点から見た原爆ドームの意味や価値について考える。	<p>○ 見通しをもって学習に取り組むために、単元計画を掲示する。</p> <p>○ 原爆前、現在それぞれの原爆ドームの写真を提示し、原爆の被害の大きさが伝わるようにする。</p> <p>○ 「平和のとりでを築く」から、原爆ドームが世界遺産になった経緯について触れ、世界的に注目されていることを理解させる。</p>
2	日本と中国の戦争がどのようなものだったか調べる。	○ 戦争を起こした理由について考えるために、当時の日本国内の様子が分かる写真から、日本が満州事変を起こした理由について考えさせる。
3	戦争がどのように世界へ広がっていったのかを調べる。	○ 世界地図を提示し、どこで戦争が起こったのか、どこの国同士が戦争をしたのかを示すことで、世界中に戦争が広がっていったことを視覚的に理解できるようにする。
4	戦争中、人々はどのような生活をしていたのか話し合う。	○ 国民の生活は戦争のために制限されていたことを理解できるように、戦争当時に使っていたものや当時の暮らしが分かる写真などを提示し、戦争時の生活と現在の生活とを比較する。
5	日本は戦争でどのような被害を受けたのか考え、話し合う。	○ 戦争による被害の大きさが分かるようにするために、戦争の被害の様子が分かる写真や空襲のあった場所を示す地図を提示する。
6	どのようにして戦争は終わりを迎えたのか理解する。	○ 現在までの復興の過程や平和への思いについて考えることができるよう、原爆による被害の様子が分かる町の写真や、現在に残されている平和を表す石碑や式典の写真を示す。

7 (本時)	様々な国の立場から、原爆ドームについてどのような思いをもっているか考える。	○ 前時までの学習を振り返りながら自分の考えをもつことができるよう、既習内容の年表や写真を教室に掲示する。 ○ 他国の立場から原爆ドームについて考えるために、歴史上の出来事から他国の人の思いを書き溜めた学習カードを活用する。
-----------	---------------------------------------	---

【本時の学習】（7 / 7 時間）

(1) ねらい

日本と外国それぞれの政府や国民の立場に立ち、戦争がもたらす被害や平和の大切さについて、多面的・多角的に考え、学習カードに書くことができる。

(2) キャリア教育の目標（①人間関係形成能力・社会形成能力）

多様な他者の考えや立場を理解し、自分の考えを正確に伝えることができる。

(3) 学習過程

学習活動	支援・留意点（◇キャリア教育の視点）
------	--------------------

1 前時までの学習を振り返る。

- ・ 日中戦争、太平洋戦争など、様々な国へ戦争が広がっていった。
- ・ 日本は不景気を回復したり、資源を獲得したりするために戦争を起こした。
- ・ 戦争中は人々の暮らしが制限された。
- ・ 広島、長崎への原爆投下により、多くの人が犠牲になり、戦争が終わった。

- これまでの学習を振り返ることができるよう、既習内容に関する写真や歴史上の出来事が分かる年表を掲示する。
- 様々な立場の人の思いについて考えてきたことを振り返るために、学習カードの内容を紹介する。

2 本時のめあてを確認する。

原爆ドームにどのような思いをもっているか、様々な立場から考えよう。

3 原爆ドームに対してどのような思いをもっているか、様々な立場から考える。

- 日本や、アメリカ、中国、その他の国の人々は原爆ドームについてどのような思いをもっているのでしょうか？
- ・ 日本の人々は過去に起こった戦争を忘れないためのシンボルのようなものだと思っている。
- ・ 中国の人々は日清戦争で日本に負けてしまい、被害を受けたから憎んでいる。
- ・ アメリカの人々は、大きな被害を生んだ原子爆弾を落としてしまったから、申し訳なく思っている。

- ◇ 多様な他者の考えを理解するために、日本、アメリカ、中国、その他の国の人々のもつ思いについて、色分けした付箋に考えを記入し、類型化する。
- 積極的な意見交換を促すために、グループを少人数（4人ずつ）に設定し、自分の考えを伝える場面を増やす。
- ◇ 自分の考えに自信をもつことができるよう、掲示物や学習カードを根拠として様々な立場からの思いについて考えさせる。
- 更に多様な考えを理解できるように、同じグループの意見交換の内容を全体に向けて発表する場面を設ける。

4 本時の振り返りをする。

- 今日の学習について振り返りをしましょう。

- ・ 最初は原爆ドームに平和のためのものというイメージしかなかったが、いろんな人の思いが込められていると感じた。
- ・ 原爆ドームは日本人だけでなく、外国の人に向けても原爆の危険性を表していると思う。

- 自分の考えの変化が分かるように、単元の最初に記入した原爆ドームへの思いと比較しながら振り返りをするよう促す。

日本と外国それぞれの政府や国民の立場に立ち、戦争がもたらす被害や平和の大切さについて多面的・多角的に考え、学習カードに書くことができたか。[観察・学習カード]

- ・ 「平和」について、外国の人の立場からも考えることができた。